



Vol.5 代掻き・硬化苗渡し編

(2018.05.08)

蒲生地域の各田んぼでは、田植えに向けて代掻き作業をする光景がみられるようになり、いよいよ田植え準備が始まりました。大切に育てられた稲苗も硬化苗まで成長して、生産者さんにお渡ししています。

蒲生地域の各田んぼでは、田植えに向けて代かき作業が始まりました。「代掻き」は、田起こし後に田に水を張り、土を細かく碎き、掻き混ぜ、田の表面を平らにする作業です。

また、代掻きをすることで

1. 苗を植えやすくし、苗の活着と発育を良くする
2. 土の表面を均すことで苗がむらなく生育するようにする
3. 藁・雑草・元肥をむらなく混ぜ込む
4. 雑草の種を深く埋め込むことにより、雑草の発芽を抑える
5. 有害ガスを抜く
6. 有機物の腐熟の促進

のような効果があるそうです。

代掻きは、田植え前の大切な作業なのです！



↑代掻きをする作業風景

硬化苗渡し

5月1日から硬化苗のお渡しが始まりました。朝早くから生産者の方々がハウスまで苗を引き取りに来られます。引取時間中に何度も引き取りに来られる方も多く、職員がハウスを歩き来して苗箱をトラックに積み込みます。

また、ハウスでの引き渡しとは別に職員がトラックに苗箱を積み込んでご指定の田んぼまで配達も行っています。配達だけでも1日に1,000枚以上配達する日もあります。苗箱は、田んぼの畔に数枚ごとに並べていきます。どちらの作業もなかなかの重労働ですが、男女職員が当番制で対応しています。そして、いよいよ田植え作業が始まります。



↑ハウスでの苗箱引き取の様子



↑苗箱の配達の様子

→配達される苗箱は、このように棚に積み込まれトラックで田んぼまで運ばれます。

